



令和3年度が終わろうとしています。今年もコロナに翻弄され大変な一年でした。皆さんはどんな一年でしたか？ 何に挑戦した一年でしたか？ 今回は私の今年の挑戦を紹介します。

まず、今年1年間トーキングマラソンというスマホの英会話アプリに挑戦してみました。本校生徒も、今年度、スタディサプリの英語学習など、無料で2種類のアプリのお試しに挑戦したところです。令和4年度から県立高校では1年生に一人一台タブレット端末を持っていただき、授業や家庭学習で活用していくことになりましたので、私も時代についていこうと思って学習アプリに挑戦してみました。令和4年度は1・2年生でそれぞれ英単語と4技能のアプリの活用開始が決まっています。スキマ時間に場所を決めてルーティーンにしてやるのが継続のコツと思いました。

77期1学年生に導入されるクロームブック





もう一つの私の今年の挑戦は、看護英検にチャレンジしたことでした。厚木東高校の校長は毎年厚木看護専門学校が学校運営協議会委員を仰せつかるのですが、その会議で、そのような看護師の英検があることを知り、これまたスマホアプリ通信講座で勉強して9月に試験を受けました。あるクイズ番組で、この本の題名は日本語で何でしょう？というのをやっていました。“I want to eat your pancreas.” 答えは、  
➡「君の膵臓が食べたい。」ですね。臓器の名前や患者さんへの問診の仕方など、英語で何て言うのかは、なかなか学校英語で学ぶ機会がありません。この挑戦も面白かったです。医療系に進む生徒諸君は、これからは国内にいても国際的に活躍するようになりますので、トライしてみるのもあります。本校の今年の卒業生の調査書には「世界遺産検定」や「秘書検定」などの挑戦が増えていたので、刺激を受けました。

一番大きな挑戦は、厚木東高校で校長職を4年間務め終わったことだったと思います。着任の秋に新校再編が発表され新しい学校創りが始まり、また、2年間はコロナとの戦いでした。生徒の皆さんに普通の高校生活を送らせてあげられなかったこと、いつもの行事や部活動が例年通りにできなかったことはとても残念でしたが、生徒の皆さんの頑張りのおかげで、ピンチをチャンスに変えることができました。皆さんや先生方が制限のある中で主体的に動いて精一杯工夫をして動いてくれたことは感動的でした。体育祭や文化祭はもちろん、最近の百人一首大会や、探求学習発表会、合唱コン、球技大会など、今年はすべての行事がスペシャルでした。至らない校長でしたが、生徒や職員をはじめとして皆さんが私を校長として育ててくれました。本当に感謝しています。



さて4月には、第77期生が入学してきます。77期生は新校開校R6年度に3年生となり、新校の卒業1期生となる学年で、この春に厚木東は5クラス、商業は4クラスが入学します。2年後に合体して9クラスの1期生になり、ロータリーのところに新たにできる、新校舎の新しいHR教室に初めて入る学年になります。部活動もR4年度には両校で合同

練習を開始し、必要なら合同チームも組めるようになります。また、相手校にしかない部に相互乗り入れして入部できるようにしていきます。行事などでも交流をしていきたいと考えています。また4年度中には、新しい制服を考えて完成し、5年度の学校広報でお披露目します。残っていた、C棟のトイレのリニューアル工事も入ります。そして、新校の校名検討懇話会も設置され、皆さんや保護者、同窓生など県民の意見を聞きながら、新校の名前が決められていくこととなります。制服にしても、トイレのデザインにしても、校名にしても生徒の皆さんの意見も伺いながら決めていくこととなります。ぜひ協力をお願いします。秋からは新校舎の建設も始まります。色々な工事ばかりで皆さんには不自由をかけますが、事故や怪我の無いように、学校生活の安心・安全第一で進めてまいります。

今はなき「日本庭園」



3月25日にオンラインで、教室モニターに配信する形で離退任式、修了式が行われました。実は私もまもなく、この3月末で定年を迎え、東高とはお別れです。新校の開校の際には、お祝いに参上したいと思います。東高・厚商一丸となって、新時代にふさわしい、素敵な学校を創っていきます。

コロナ禍もまだ先行き不透明なところで、ウクライナ情勢など世界にも不穏な空気が漂っています。しかしこのような世の中の状況にあっても、生徒一人ひとり、それぞれの未来

に向かって、日々の努力と大小の挑戦を積み重ねていってくれと信じています。これから、色々な節目が訪れると思いますが、悩んだ時には、沢山の人の助けを得ながら、何事も自分で考え抜き、自分で最終決定してほしい。誰のものでもない生徒の皆さん一人ひとりの人生なのですから。皆さんはこれまでの常識が通用しない、誰にも予測できない時代を切り拓いて生きて行くのですから。**挑戦して失敗することよりも、挑戦しないことを恐れてほしい**と思います。何をしてもどのように生きて行きたいのか、自分の心の声を聴いて、後悔の無いように進んでいってほしいと願っています。自分で決めたことは人のせいにはできません。それが大切です。

東高の生徒には“伸びしろ”しかありません。自慢の生徒たち&職員の輝く未来とご多幸をお祈りし、ずっとずっと、応援しています。**厚木東で挑戦！**



昨年春の桜（部室棟横）

最後になりましたが、職員の皆さま、保護者の皆様、PTA 役員  
の皆様、本校同窓会＝常盤会の皆様、PTA 同窓会＝王子会  
の皆様、コミュニティスクールでご支援くださった学校運営  
協議会委員の皆様、近隣の自治会の皆様、連携くださった厚  
木市や各公民館、小・中学校の皆様、そして、弓道場の横で  
東を向いていらっしゃる手児奈姫さま、116年の学び舎で人知れ  
ず“校長みどり”を見守り、支え続けてくださった、はるか  
明治の昔からの諸先輩方・・・皆様のお陰で私は何とか勤め  
あげることができました。これまでの皆々様のご支援ご協力  
に、深く深く感謝申し上げますとともに、今後とも東高そし  
て新校へのあい変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

私はこれからも、別の場所で、新しいライフスタイルで、  
新たな挑戦をしていきたいと思えます。大切な命という時間  
を少しでも多く自分以外の誰かのために使えるように、進ん  
でまいります。

最高に幸せな4年間を、本当にありがとうございました。  
これからも厚木東高校をどうぞよろしくお願いいたします。

神奈川県立厚木東高等学校  
第35代校長 村越 みどり



感謝